

新参の蝶・消えゆく蝶 ① ちよう

対馬の自然と文化を守る会

境 良 朗

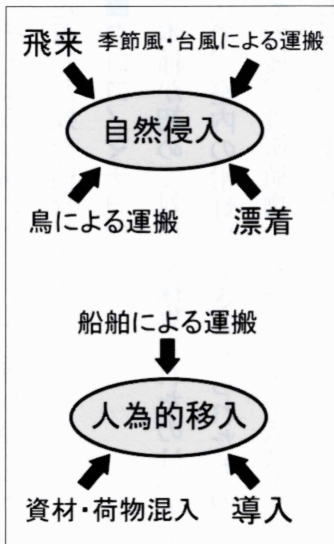
相変わらず巷ちまたでは外来スズメバチの話題が続いています。最近も地上三〇mの決死の駆除活動がBSで放送されていました。まさに、「川口駆除隊が行く!」という感じで楽しく拝見しました。

さて、このツマアカスズメバチのように、元々対馬にはいなかった昆虫が、自然侵入あるいは人為的移入によって、対馬に入ってくる場合があります。

基本的に多くの昆虫は、条件さえ揃えば生息域を広げようとする習性(本能)を持っています。蝶類でも例外ではありません。卵や幼虫の段階で

植物に付着して持ち込まれる可能性もゼロではありませんが、自力飛来の自然侵入によって入ってきたと判断してもよいでしょう。

自力飛来で対馬にやって来た蝶のことを「迷蝶」めいとか「偶産蝶」ぐうさんなどと呼んでいます。暖かい南方からの迷蝶が多いのですが、北からの訪問者もわずかながら記録されています。これは、蝶の活動期と対馬に吹き込む風の向きが原因だと思われます。北風が吹く晩秋～冬季には蝶はほとんど飛びませんから…。



南からの主な迷蝶

ウスキシロチョウ、クロマダラソテツシジミ、アオタテハモドキ、リュウキユウムラサキ、ウスイロコノマチョウなど二十種以上。

北からの迷蝶

チョウセンシロチョウ、オオモンシロチョウ、クジャクチョウの三種。

しかし、多くの条件が重なることで偶然に對馬にやって来たとしても、ほとんどは定着することなくその年限りで絶えてしまいます。對馬の環境が迷蝶本来の生息地の環境とあまりにも違っている、世代を繋ぐことができないからです。

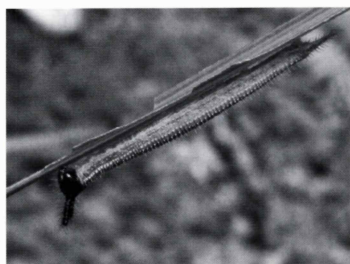
食餌植物（幼虫が育つための植物）の問題もあります、最大のネックは気温で、對馬の寒い冬を乗り切ることができないのです。同様に、北からの迷蝶にとって、夏場が高温多湿なのはあまりにも過酷といえましょう。

そのような高いハードルを乗り越えて、對馬に定着した蝶を紹介します。

■クロコノマチョウ

本種が初めて對馬で採集されたのは一九七〇年代で、室内の電灯に引き寄せられたものでした。その後、食餌植物のジュズダマやススキから幼虫も見つかりました。

成虫で越冬する蝶なので、春先の越冬個体の発見がポイントでしたが、いつの間にか定着してしまったという印象です。



ススキの葉を食べる幼虫



クロコノマチョウの秋型♀

対馬に棲^すみ着いた頃から、全国的にも北上する蝶として注目を集め、今でも少しずつ生息域を北に広げています。

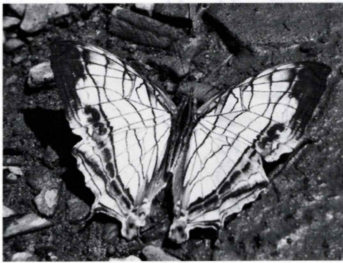
■イシガケチョウ

一九八五年、上対馬町^{しやうし}舟志で採集されたのが対馬初記録です。その後、しばらくして豆^つ酸で小学生が見つけたらしいという情報が入ってきましたが、確認できませんでした。

ところが、一九八八年に上見坂^{かみざか}で3頭目撃・2頭採集という、まとまった記録が出たのです。本



イヌビワの葉を食べる
幼虫 姿が奇抜

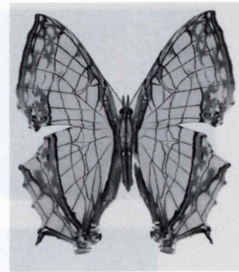


吸水するイシガケチョウ

種の食餌植物はイヌビワで、対馬では全島に広く見ることができるので、問題は越冬できるかどうかだけでした。注目の中、九〇年代になって爆発的に個体数が増加し、一気に定着を果たしました。わずか数年で、全島至る所で普通に見られる蝶になってしまったのには驚かされました。

イシガケチョウもクロコノマチチョウと同じように、温暖化によって北上している蝶とされています。二〇〇〇年代になって、対馬とほぼ同じ緯度にある大阪府でも記録されたようです。

■ヤクシマルリシジミ



「ちよっと変わった蝶を採^とったよ。ルリシジミじゃないように思うちやばってん。」

電話の主は杉憲^{すぎあきら}さん。

イシガケチョウ♀
2008年7月12日
巖原町豆酸

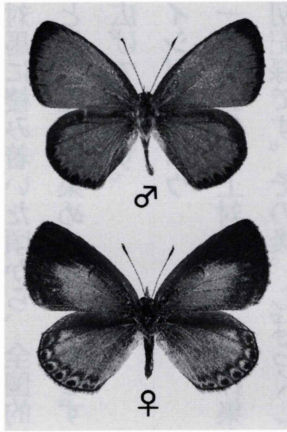
二〇〇四年七月一九日、

豆殿崎で採集されたルリシジミに似た蝶を調べると、対馬では記録のなかったヤクシマルリシジミの♀でした。

翌年にも数頭が見つかり、二〇〇八年までの間に厳冬期の幼虫が発見されるとともに島内各地に生息が広がったことが確認されました。このことを受けて、二〇〇九年をもって本種の対馬定着を確信しました。

現在は、定着当初ほどではありませんが安定した発生が継続しています。

さて、これら新参の蝶はなぜ環境的にも厳しい



ヤクシマルリシジミ

♂：2011年11月5日

♀：2010年10月11日

厳原町久田

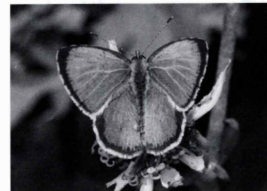
産卵



終齢幼虫



ツワブキで吸蜜



新天地の対馬で定着することができたのでしょうか。いくつかの共通点が考えられます。

- ① 風を利用する高い移動能力
 - ② 対馬に食餌植物が豊富に生育
 - ③ 耐寒性があり、越冬を克服
 - ④ 天敵および在来種との共存
- 新参の蝶によって、対馬に新しい蝶が増えることは嬉しいことなのですが、一方で人知れず姿を消している蝶もいるのです。

(次号へつづく)